

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

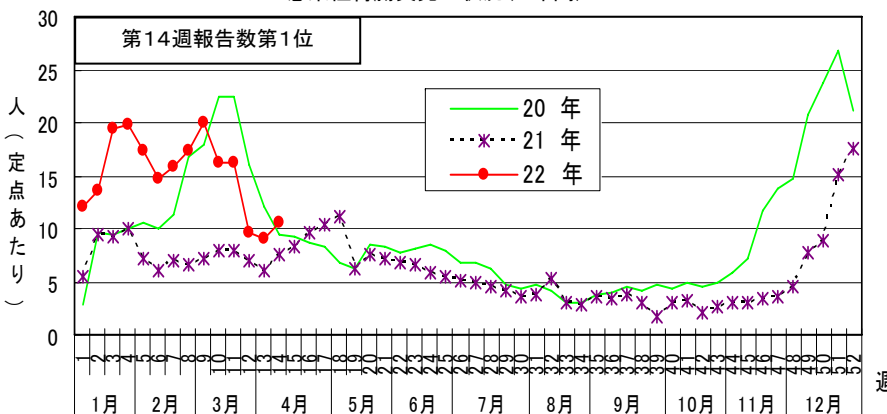
平成22年4月5日（月）～4月11日（日）〔平成22年第14週〕の感染症発生状況

第14週で報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 水痘 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎となっています。

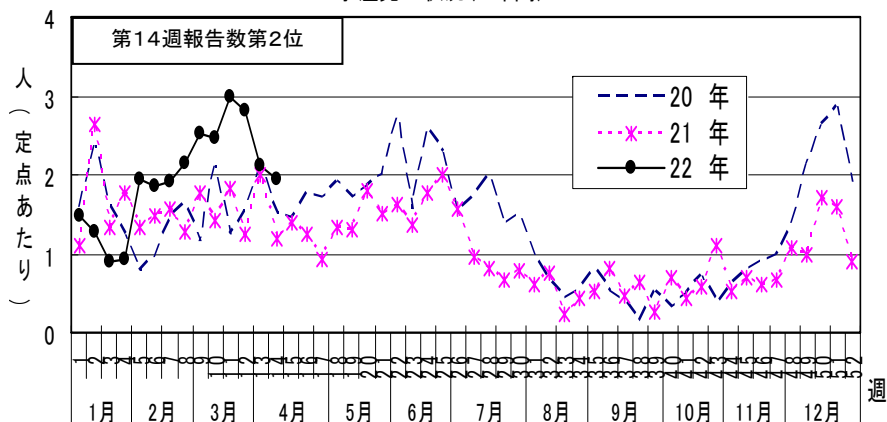
感染性胃腸炎が定点あたり10.50人と前週（9.06人）に比較して患者数は増加しました。

水痘は定点あたり1.94人で3週連続して患者数は減少（前週2.13人）しておりますが、区別では高津区で報告が多く、3週連続で流行発生注意報基準値（定点あたり4人）を超えています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点あたり1.38人で前週（1.09人）に比較して患者数は増加しました。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



水痘発生状況(3年間)



～ポリオ(急性灰白髄炎)予防接種(春)～

川崎市では、春と秋に、ポリオの予防接種事業を実施しています。新年度を迎え、保育園等で新たな集団生活が始まる時期ですので、対象の方はこの機会に予防接種を受けましょう。

症状は！？

ポリオはウイルス感染から発症までの潜伏期間は4～35日間(平均15日間)です。感染しても、90～95%の方は無症状でおわり、一生抵抗力(終生免疫)が得られます。

症状が出る場合でも、ほとんどが風邪のような症状でおわる一方で、感染者の約0.1%が典型的な麻痺を起こします。麻痺症状が進行し、呼吸困難により死亡することもあります。

予防接種について

ポリオに対する有効な治療法はないため、ワクチン接種によってポリオウイルスの感染を予防する事が最も重要です。日本では2回接種方式で経口生ポリオワクチン(0.5cc程度の液体を飲む)を使用しています。

注意すべき副反応として、ワクチンによってポリオ様の麻痺が発生する可能性が極めてまれにあります。さらに、接種を受けた人の便等により、周囲の免疫を持っていない人への感染(二次感染の発生)がおこることも極めてまれにあります。

日本でも、平成22年2月にポリオの二次感染事例が報告されています。

川崎市ポリオワクチン接種情報

※予防接種に関するお問い合わせは各区役所保健福祉センター地域保健福祉課へお問い合わせ下さい。

接種時期

春と秋に実施しています。日程については、春は4月から6月にかけて実施しますが、詳細についてはお問い合わせください。時間は午後1時から午後2時50分までです。

対象者

生後3か月から7歳6か月にいたるまでの方で2回接種の済んでいない乳幼児が対象です。

注意事項

BCG、麻しん・風しんの予防接種から27日以上、ジフテリア・百日せき・破傷風の3種混合、日本脳炎予防接種から6日以上あけてください。

昭和50～52年生まれの方は、ポリオの免疫保有率が低いことから、お子さまと一緒に予防接種を受けることができます。御希望の場合は事前に各区役所地域保健福祉課までお問い合わせ下さい。

予防接種を受けた人から接種後15～37日間(平均26日間)にわたってウイルスが便中に排泄されます。このウイルスが、免疫を持っていない人(ワクチン接種していない人など)に感染(二次感染)することが極めてまれにあります。そのため、オムツ換えの後は十分に手洗いをするなど注意してください。

